

石狩川滝川地区水害タイムライン検討会の開催状況

設立趣旨

滝川市は、石狩川と空知川に隣接して市街地が広がり、国道12号、JR函館本線や高速道路が交差する交通の要となり発展してきました。

一方、堤防や河道掘削などの河川整備が進んできたものの、近年の豪雨災害を踏まえると更なる対策が必要であり、河川改修等のハード整備に加え、河川特性や滝川市街地区の水害特性を踏まえたタイムラインを策定することが防災上、非常に有効です。これらを踏まえて、滝川地区における関係機関が連携し、住民の生命を守るために、先を見越した早期の災害対応を実現する「石狩川滝川地区水害タイムライン検討会」を設置しました。

参加機関

- ・陸上自衛隊
- ・空知総合振興局
- ・滝川警察署
- ・滝川地区広域消防事務組合
- ・滝川市消防団
- ・空知土地改良区
- ・中空知広域水道企業団
- ・滝川市社会福祉協議会
- ・北海道旅客鉄道
- ・北海道電力
- ・滝川市民生委員
- ・児童委員連合協議会
- ・札幌開発建設部
- ・札幌管区気象台
- ・滝川市（関係部署含む）
- ・日本赤十字社
- ・NEXCO東日本
- ・滝川ガス
- ・滝川市医師会
- ・滝川建設協会
- ・北海道中央バス
- ・NTT東日本
- ・エフエムなかそらち

- ・滝川市内自主防災組織（幸町第4区）
- ・滝川市内自主防災組織（泉町連合）
- ・東滝川連合町内会
- ・東町連合町内会
- ・西町連合町内会
- ・有明町連合町内会
- ・扇町町内会連合協議会
- ・大町地区町内会連合会
- ・新町町内会連合会
- ・西町中央連合町内会
- ・本町町内会連合会
- ・緑町連合町内会
- ・南地区町内会連合会
- ・江部乙防犯協会

【座長】

- ・東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 客員教授 松尾一郎

【アドバイザー】

- ・NPO法人環境防災研究機構北海道 黒木幹男
- ・国土大学防災・救急救助総合研究所（元NHK解説委員） 山崎登
- ・気象予報士 志田昌之

【オブザーバー】

- ・北海道総務部危機対策局
- ・北海道建設部建設政策局
- ・中空知管内4市5町（赤平市、芦別市、歌志内市、砂川市、新十津川町、上砂川町、奈井江町、浦臼町、雨竜町）
- ・國學院大學北海道短期大学部
- ・北海道開発局札幌開発建設部 空知川河川事務所

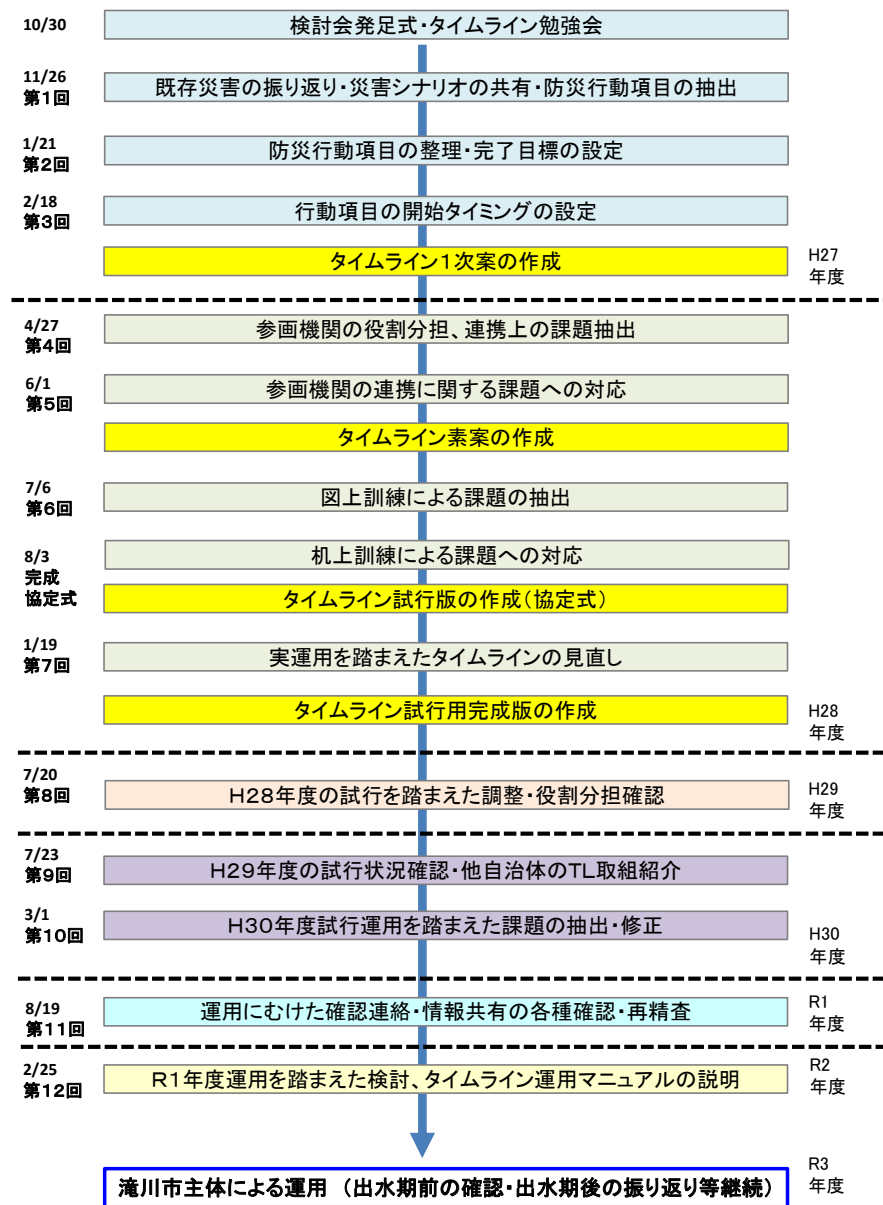
【事務局】

- ・北海道開発局札幌開発建設部 河川整備保全課
- ・気象庁札幌管区気象台 総務部業務課
- ・滝川市 総務部総務課防災危機対策室

期待される効果

- ・水防体制の見直し・改善
- ・関係機関の「顔が見える関係」の構築、連携の円滑化
- ・早め早めの防災行動の確立
- ・防災行動の「漏れ・抜け・落ち」の解消
- ・住民の早期避難
- ・自治体・関係機関・自主防災等が一丸となった災害対応の実施

■滝川地区水害タイムライン検討会の開催状況



【石狩川滝川地区水害タイムライン検討会】これまでの取組

滝川地区の関係機関が連携し、住民の生命を守るために、先を見越した早期の災害対応を実現する『石狩川滝川地区水害タイムライン検討会』を設置。

検討会に先立ち、平成27年10月30日に『タイムライン検討会』発足式を開催。

現地視察会を開催



滝川地区の地域特性等を共有するための現地視察

発足式の様子



石田札建部長、前田滝川市長による決意表明



松尾座長、山崎アドバイザーによる講演

勉強会の様子



事務局、国交省時岡専門官による勉強会

国民の命を守る事前防災行動計画(タイムライン)のイメージ

行動時刻 (いつ)	対応段階	防災行動事項 (何を)	役割 (誰が)																
			市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区	市・区
		台風の発生、襲来の可能性	情報収集	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整
120時間前	タイムラインの 立ち上げ	タイムラインの立ち上げ(基準に基づく)	意思決定	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
120時間前		防災情報の収集・共有	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
120～96時間前		防災行動の企画立案・組織内役割の明確化	情報収集	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整
120～96時間前		管内管理施設の巡視・点検	情報収集	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整	調整
120時間前	準備	住民等への定期的な防災情報の提供	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
72～48時間前		台風の影響あり、気象・水象現象が注意状況	意思決定	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
72～48時間前		想定被災別々の区民・利用者避難計画の立案	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
72～48時間前		要援護者関連施設などの対応判断	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
72～48時間前	実行	住民・利用者への早期避難予告	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
48～24時間前		気象警報または、河川はん濫の可能性	意思決定	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
48～24時間前		水防団の出動判断	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
48～24時間前		避難所の開設準備	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
36～24時間前	実行	自主避難の呼びかけ(避難行動要援護者等)	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
36～24時間前		はん濫危険水位超過、の可能性	意思決定	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
36～24時間前		避難情報の発表	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
36～24時間前		住民の避難およびその支援	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
12～6時間前	実行	救助・避難誘導	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
12～6時間前		台風接近、河川はん濫発生	意思決定	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
6～0時間前		徹底避難(緊急)の呼びかけ	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
6～0時間前		消防・警察 避難	情報収集	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有

タイムラインによる効果

- ・水防体制の**見直し・改善**
- ・関係機関の「**顔の見える関係**」の構築、連携の円滑化
- ・**早め早めの防災行動の確立**
- ・防災行動の「**漏れ・抜け・落ち**」の解消
- ・住民避難の**早期避難**
- ・自治体・関係機関・自主防災等が**一丸となった災害対応の実施**

【石狩川滝川地区水害タイムライン検討会】これまでの取組

第1部 完成報告、協定式 平成28年8月3日(水)

全国でも最大規模の数となる36の関係機関と合同で検討してきた「石狩川滝川地区水害タイムライン」について、道内で初めて試行版が完成したため、完成報告及び協定式を行った。

また、当日は、昭和56年8月の大洪水から35年目に当たることから、浸水被害等に関する講演とタイムラインをどのように活かすかをテーマとしたパネルディスカッションも併せて行われた。



松尾座長から前田滝川市長へタイムライン
試行用完成版の引き渡し



協定式の様子



滝川市
防災危機対策室
青山 係長



NTT東日本
岩見沢営業支店
岡崎 課長



滝川消防署
中井 所長



滝川道路事務所
柏谷 副所長



滝川市幸町
第4区地区防災会
東藤会長

参加機関を代表し、5名の方々に滝川地区水害タイムライン試行版の抱負を發表していただいた。

5名の方はそれぞれ、「地区の防災会でタイムライン検討委員会を立ち上げ、町内会からタイムラインの有用性を広めていきたい」、「今後、色々なところで自分が起こす行動のトリガーが何かを考えながら行動しなければいけない」、「使う度に精度が上がっていくと良いと思う」といった今後の取組やタイムラインへの思いを語った。

第2部 講演及びシンポジウム 平成28年8月3日(水)

第2部は志田気象予報士による昭和56年8月水害の気象・降雨についての講演で幕を開けた。さらに、環境防災研究機構北海道の黒木専務理事による昭和56年水害の被害と対策について講演があり、参加者は熱心に耳を傾けた。

続いて、NHK解説主幹の山崎氏をコーディネーターに迎え、アドバイザーとして松尾座長、パネリストとして前田滝川市長、難波江札幌開発建設部長、林札幌管区気象台長、そして札幌テレビ放送の取締役編成局長である萬谷氏とともに、「石狩川滝川地区水害タイムラインをどのように活かすか」をテーマにパネルディスカッションを行い、「専門用語を使わずに誰でも分かる言葉での情報発信をお願いしたい」や、「大規模災害をもたらす気象条件は毎回違う」、「東日本大震災は、事前に準備していなかったことは何もできなかった」等が話し合われた。

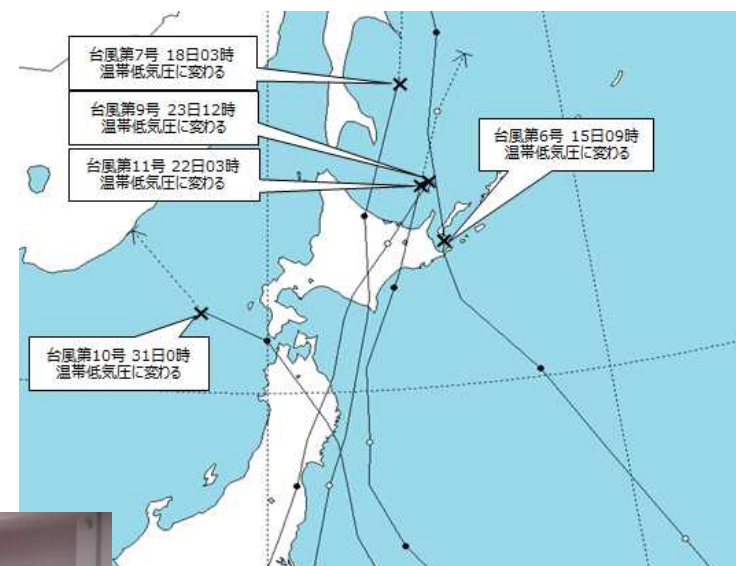


パネルディスカッションの様子

【石狩川滝川地区水害タイムライン】出水時の運用

●平成28年8月は、北海道に観測史上初めて3つの台風が上陸し、その1週間後、再び台風第10号に伴う大雨により大きな出水となった。滝川TLは試行版完成後、間もなく運用することとなった。

- 【石狩川滝川地区水害タイムライン】試行版に基づき、台風接近前からタイムラインの運用を開始した。
- タイムラインレベルごとに滝川市、札幌開発建設部、札幌管区気象台で合同テレビ会議を開催し、現在の気象状況や今後の台風進路などを確認し、今後の体制について確認した。
- 台風11号・9号の際はレベル3まで発動したが、タイムラインに沿って対応したため、関係機関との情報共有などが円滑に行われた。



提供: 札幌管区気象台

台風第7号 (8月16日～18日) レベル2まで発動
 台風第11・9号 (8月19日～24日) レベル3まで発動
 台風第10号 (8月30日～31日) レベル1まで発動

【札幌管区気象台】

・今後の台風の進路や気象予測情報の提供



【滝川市災害対策本部】

・体制状況や避難所等の状況確認



【札幌開発建設部】

・水位予測や河川・ダム
 の状況を情報提供



テレビ会議

電話会議の様子
 30日 午前10時ごろ

【石狩川滝川地区水害タイムライン検討会】これまでの取組

第1回検討会 平成27年11月26日(木)

対象とする想定災害シナリオ、具体的防災行動を考えるためのイメージ共有を図りました。

①どんな被害が想定されるか、

②何をすべきか、

③どんな課題があるか、

のテーマごとに取るべき防災行動について議論し、情報共有しました。



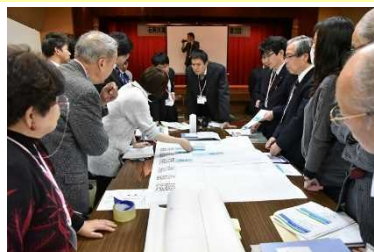
第4回検討会 平成28年4月27日(水)

第3回検討会までに設定した行動項目・細目の所要時間や行動開始時期の確認に加え、各行動項目・細目の担当機関の設定や他機関との連携について議論を行いました。



第2回検討会 平成28年1月21日(木)

想定した水害シナリオに対する「到達目標」を整理するとともに、「到達目標」を達成するための「行動項目」「行動細目」の抽出・順序などを検討しました。



第5回検討会 平成28年6月1日(水)

第4回検討会後に作成したタイムライン一次案を基に、これまで検討した到達目標に向けての行動項目・細目それぞれの担当機関の役割確認や連携について検討しました。



第3回検討会 平成28年2月18日(木)

第2回検討会で抽出した「行動項目・細目」の内容を確認し、「滝川市役所が浸水した際の機能移転や、休日の職員参集の遅れをどうするか」、といった不足している行動細目の追加と、各行動細目の実施時期および所要時間の設定を行いました。



第6回検討会 平成28年7月6日(水)

タイムライン試行版の完成に向け、参加機関による机上演習により、タイムライン素案の内容確認を参加機関全体で行い、行動細目の過不足、防災行動開始のきっかけとなる情報を受けてからの行動項目について修正点などを抽出し、議論や確認を行いました。



【石狩川滝川地区水害タイムライン検討会】これまでの取組

第7回検討会 平成29年1月19日(木)

平成28年8月の一連の台風で初めて実運用したタイムラインの各機関の試行対応状況を基に、タイムライン試行状況、共有情報などの確認が行われ、改善に向けた意見交換を行いました。



第10回検討会 平成31年3月1日(月)

滝川市役所内ワーキングを踏まえたタイムラインの修正内容について、関係機関への確認が行われました。

平成30年度の試行運用を踏まえて、情報共有に関する課題点、解決方針、タイムラインの修正内容について事務局より説明しました。

滝川市泉町連合町内会より防災の取組について紹介がありました。



第8回検討会 平成29年7月20日(木)

大雨警報（浸水害）・洪水警報の基準改正について情報共有しました。

平成29年度の試行運用に向けて、平成28年度の試行を踏まえた各自の役割の確認と修正、TLの行動項目についての疑問点・不明点・課題点の抽出を併せて行いました。

その他、滝川市幸町第4地区防災会の独自作成したタイムラインの紹介がありました。



第11回検討会 令和元年8月19日(月)

次年度からの運用に向けて、現検討会から「（仮称）滝川市水害タイムライン運営協議会」へ移行する方針（要綱を次回検討会までに提示し、決定）と積極的な各機関の運用協力の必要性について共有しました。

また、共有すべき情報の種類と項目、各情報の伝達と取得の手段、各機関の役割などについてタイムラインの読み合わせを行って話し合いました。



第9回検討会 平成30年7月23日(月)

平成30年7月の大雨による出水の概要、各機関の対応状況について情報共有しました。

先駆けてタイムラインを策定・運用している多治見市より、策定に至るプロセス、防災・減災の取組の紹介がありました。

その他、座長より、平成30年7月豪雨における西日本の被害状況について情報提供がありました。



第12回検討会 令和3年2月25日(木)(Web開催)

次年度から、運用主体を滝川市に移行することに向けて、情報伝達方法や運用マニュアルの目的、活用方法、内容の一部変更について、事務局より説明しました。

また、滝川市より、次年度から運用主体が滝川市に移行することと運用の規則について説明し、運用移行後の連携強化について、関係者に協力依頼がありました。

閉会の挨拶では、前田滝川市長から関係者への協力依頼と今後の運用への決意を述べて閉会となりました。

